

■ 2021年度 入試問題分析シート ■

慶應義塾大学

経済学部

科目	数学
----	----

総括

試験時間	80分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	150点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

昨年同様、文系入試としては難しめである。今年ほどの問題も方針で迷うことはないが、完答するには論述力および作業を簡潔にする工夫が必要である。

[6]では、与えられた α , β に対して $F(x)$, $G(x)$ を考えるという題意が、受験生にはわかりにくかったかもしれない。

〈特記事項・トピックス〉

今年の出題は、整数の出題がなくなった以外に特筆すべきものがないほど、定番のセット（図形と方程式、確率、数列、指数対数、ベクトル、微積分の出題）である。

空間において図形的考察を行なうこと、微積分の問題において整式の性質を応用することは、ここ数年決まって出題されている。

〈合格への学習対策〉

難問はないものの高い学力が要求されるので、普段からよく考え、その過程を答案としてきちんと書けるような学習が望まれる。今年のように、方針はすぐに立っても完答に手こずる出題もよくされるので、難しい解法研究よりも、基本事項の本質的な理解に力を入れる方が得策であろう。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
[1]	マーク式	II	図形と方程式	2つの円の両方に外接する円の中心と半径。	標準
[2]	マーク式	A	確率	さいころの1以外の目が出たらその回数だけさいころを投げる反復試行の確率。	標準
[3]	マーク式	B	数列	漸化式と数列の和。階差の考察がポイントとなる。	標準
[4]	記述式	II, B	対数, 数列	対数不等式を満たす奇数の個数の和と桁数。	標準
[5]	記述式	B	ベクトル	空間における三角形の考察と直線と球が接する条件。機械的に計算すると作業量が多すぎるので、図形的考察を取り入れる方がよい。	標準
[6]	記述式	II	整式, 微分法, 積分法	3次関数のグラフの接線とそれにまつわる恒等式, および面積の取り得る値の範囲を考える。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。